



移住のテーマは「人との関係を築くことから」

鬼北町地域おこし協力隊 早川 優子



鬼の棲むまちに移住しました

鬼の棲むまち鬼北町。鬼北町は全国1741の地方公共団体の中で唯一「鬼」の文字が入る自治体です。このまちに、東京都葛飾区から2018年4月に移住しました。私の家は祖父母が南青山、父が京橋育ち、代々東京なので夏休みに新幹線などで田舎に行くお友達が羨ましく憧れがありました。しかし東京以外に住んでみたいと思っただけでも、実際縁もゆかりもない場所に住むとは全く思っていませんでした。きっかけは東日本震災の後、ボランティアで各地いろいろな場所に行ったこと。旅行とは違う視点で知らない地域に入って、観光地ではない普通の民家の人達と話した時、他の地域を知らなすぎで、狭い世界にいたことを痛感しました。知らない土地でちゃんと住んでその土地を知り、地域を知り、もっと自分でも役に立つことは出

来ないか。

それから移住フェアなどに足を運び、小さなコミュニティを求めていたので主に島を中心に訪れてみました。伊豆諸島、トカラ列島など。今でも繋がっている島好きの仲間から、愛媛県オススメだよと教えてもらいしまなみ海道へ。そこから愛媛県へと決め、県内を周り、移住者、協力隊、地元の方々と交流し、東京の移住コーディネーターにもママに連絡しながら、移住するまでなんと3年かけてしまいました。

その間に何度も訪れた愛媛県のみかんボランティア。そこで知り合った人たちは今でも繋がっていて、何かあるごとに今も助けてもらっています。そう！どの地域もいい人ばかりだったけど、愛媛はなんだか自分に合いました。どこ行ってもみんなが、「ここが実家だと思っただけでも帰ってきな」と言ってくれた。東京に帰っても電話や手紙をくれたり、遠い親戚がたくさん出来た気分でした。そんな愛媛県宇和島でボランティア中、鬼北町役場の方に「3時間だけ時間くだ

さい」と言っていただけ案内してもらった鬼北町。ゆったり流れる時間と風景を見ながら「ここかも」と感じ、すぐに移住を決めました。

地域を知るところから

鬼北町は滑床溪谷や高知県へ行く通過点にすぎず、観光や名産もPRが強くなり控えめでした。まず鬼の商品が少ないと思いき、移住してすぐ、リサーチもマーケティングもしないまま、東京で流っているからという理由だけで、鬼をモチーフとしたご朱印帳を作りました。作った後で、ご朱印帳の認知度が全くなかったことがわかり、ご朱印とは、パワースポット巡りをしながらご朱印を集めることで、ご利益を授かることとの説明からPRしました。ここで一番初めの挫折です。このことで、まずは地域を分らないといけないことに気づき、そして、とにかく人に会うこと、地域を知るところから始めないとダメだと思いました。まずは地域の農家さんたち。毎日、道